

ありのままの農村生活



家族のようにながれ



実際のホームステイの流れをご紹介します。

はじめてみよう、農村ホームステイ

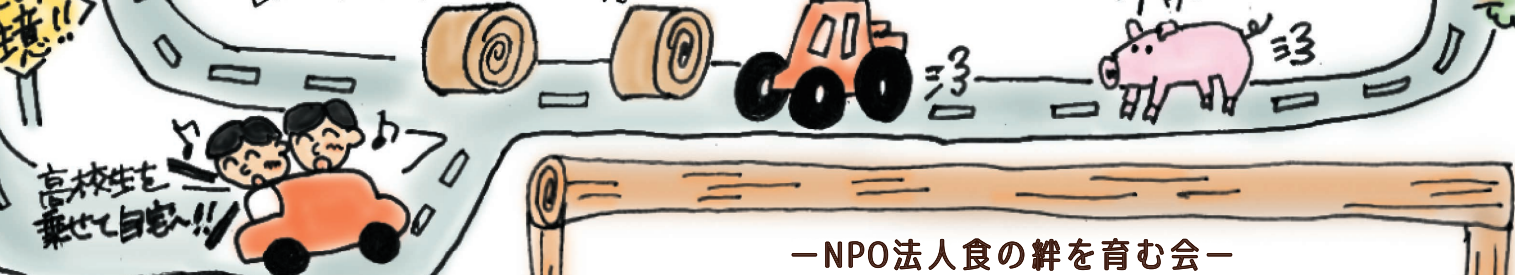
受け入れが決まったら...?



当日!! とかち農村ホームステイ!! 入村式



入退村式は基本的に在住の市町村で行われます。入村式会場に迎いに行き、高校生と初対面!! 高校生を車に乗せて、各ホームステイ先に向かいます。



-NPO法人食の絆を育む会-

○現在、十勝農村ホームステイは、NPO法人食の絆を育む会が運営主体となり、管内にある12の協議会で構成されています。

ちはるの里(足寄町) / うらほろ子ども食のプロジェクト
 グリーンツーリズムおとふけ / おびひろ農村ホームステイ協議会
 しほろホームステイ研究会 / 清水町農村ホームステイ協議会
 南十勝長期宿泊体験交流協議会(大樹、広尾、更別、中札内、幕別忠類)
 新得町農村ホームステイ協議会 / まくべつ緑の里
 鹿追子ども宿泊体験受入推進会議 / めむろ農家民泊研究会
 本別こども民泊受入れの会 (平成27年5月現在)



写真左より旦那さんの坂根昌幸さん、聖子さん。高校生の受け入れは今年で6年目。旦那さんは牛舎の説明やえさを高校生に詳しく説明してくれるそうです。

大樹の自慢!! ドヤ!!

「食事をする前に必ず“さけるチーズ”を出してきて『これ知ってる? 後ろ見てごらん! 雪印の大樹工場!! 大樹の牛乳で作ってるんだよ。今日搾ったのが、このチーズになるんだよ』といつも生徒たちに話します。旦那には、『また、始まったか』って言われます(笑)」



地元な・ら・で・は

「一年にこの時期しか食べられない、地元で獲れた鮭を一匹まるごとさばいて、みんなでイクラの醤油漬けを作ります! イクラを食べられなかった子が、2粒3粒食べて結局おかわりしたこともありました。子どもたちには、『この一粒一粒が命なんだよ』と話しています」



ハロウィーン

「時間のあるときは、好きな形にカボチャをくり抜き、カボチャランタンを作ります。カボチャ団子やイモ団子も高校生と一緒に作ると楽しいです!! 高校生たちが家に帰ってからも作れるかな~と思ってやっています。こういうアイデアは他の受け入れ農家さんから教えてもらっています」



大樹町の酪農家 坂根聖子さんに聴きました。
高校生が来てから帰るまでの「ありのままの農村生活」

坂根家の農村ホームステイ

家に帰るまでがカギ



「入村式会場から家に向かう車の中は、高校生たちとゆっくり話ができる場でもあります。ここで高校生たちとたくさんコミュニケーションを取って、打ち解けるようにしています」



川でエンジョイ!!

「息子が高校生たちを川に連れて行ってBBQをしてくれることもあります。自分の家の牛の肉とレタスとトマトをパンにはさんでサンドウィッチを作ります。少しでも見てくれる家族の存在は助かります!」

わたしの宝物



「高校生はここに来ていろんなことを感じると思うんだけど、口に出すのが苦手な子もいるんだよね。だから高校生が帰る前に、1泊2日で感じたことを紙に書いてもらっています。1枚じゃ書ききれなくて2枚にわたる子もいてね。それをプロフィールと一緒にファイルしておく、後から見返せていいんです!」



昔から受け入れをしている農家さんに「特別なことをやったらダメ! 普段通りでいいんだよ」と教えてもらいました。最近では、今流行りの「ありの~ままの~♪」と歌いながら、構えず、気持ちを楽にして受け入れをしています。



10年後・・・

「幕末のときでも、何か新しいことをする時は風当たりも強いし『何をやりだすんだ!』って言われる。この農村ホームステイも一緒に、たくさんの壁があって、それを乗り越えるのは大変だと思う。でも後10年ぐらい経って、この受け入れが続いていて、『あの時はみんなでこう言ってたね』って笑いながら話せたらいいな~と思っています」

帯広の畑作農家 石橋沙織さんに聴きました。
高校生が来てから帰るまでの「ありのままの農村生活」

石橋家の農村ホームステイ



高校生が来ることでお部屋がピカピカ

「まだここが終わってない！！と言って、高校生が来る日はバタバタで…でも夫婦で分担して大掃除。高校生のお陰で部屋がきれいになって、お父さんにもほめられます（笑）」



近所さんにHELP

「自分のところで作っていないイモやアスパラを、ご近所の農家さんの所へ行って収穫させてもらっています。また、酪農家さんの家に行って牛を見せてもらったりもしています。ほんと、近所の方たちに助けられているんです。」



こんなことでも感動



「夕食後、外に出て道路に寝そべり星空を眺めます。真っ暗な夜、まっすぐな道、信号のない道路…都会にはないものに驚き、感動してくれます。」



「人参を引っこ抜いただけでも喜んでくれる。獲れたての野菜を『美味しい！』と言って食べてくれる。『本当に帰りたくない』『こんな家族になりたい』と言ってくれる。当たり前だと思っていた自分たちの生活が、実は当たり前じゃないということに気がかされました。高校生からもらうことの方が多いです。」



その後・・・

その年の受け入れが終わるとご近所の受け入れ農家さんが集まり「お疲れさん会」を開催！！
半分のお母さん方が大変だったという感想の中・・・

先輩お母さん「私はほとんど高校生にやらせてるよ。茶碗洗いでなんでも任せちゃったら意外とみんな出来るもんだよ。そうすると楽しいし、気持ちも楽になるよ！」
沙織さん「今まではやってもらうことが申し訳ないなあと思っていましたが、今度からは高校生にどんどん手伝ってもらおうと思います！！」



写真右後ろより、お父さんの石橋典之さん、旦那さんの啓真さん、そして沙織さん。写真右前より次男の志垂くん（1才）、長女の陽向ちゃん（5才）、長男の蒼来くん（3才）。高校生の受け入れは、今年で6年目。近くに住んでいる弟さん夫婦も受け入れに協力してくれています。



受入のきっかけは？

「旦那さんが高校生の頃にもお父さんが農村ホームステイの受け入れをしていて、その時受け入れた子どもたちが、大きくなって遊びに来て、昔の話をとても楽しそうに話していたんです。それを見て、お腹に子どももいて不安だったんですけど、そういうことも残せるならやってみようかな～と思ったのが始まりです。」

子どもたちも大はしゃぎ



「高校生を迎えに行った帰りに、子どもの保育所のお迎えに行くこともあります。子どもたちがいると、とっても助かります。話の糸口がつかめない時でも子どもたちが軽くクリアして、私たちの橋渡しをしてくれるんです。」

いつものお決まりメニュー



「夕飯はカレー、昼は焼肉とだいたい決めています。カレーは高校生が色々な野菜の切り方をするので面白くて。たまにピザを焼いたりもしますが、メニューを決めておくと気持ちが楽になるんです！」

もう、はなさな～い

「退村式では、陽向が高校生の足にしがみつき、離れないこともありました。高校生に出会うことで、楽しかったり嬉しかったり別れを惜しんで悲しんだり…子どもにとって大きな成長に繋がっています！！」

